

改革みらいを代表し、委員長報告に賛成し、平成28年度（2016年度）多摩市一般会計予算に可決の立場から意見討論いたします。

平成28年度予算は、従来の堅実な財政運営は踏まえつつも、これからの多摩市の未来を描くために新たなプロジェクトに一步踏み出していく決意を込めた予算であると受け止めています。

多摩市では今後急速に高齢者人口の割合が高まっていき、税収構造にも変化が見えています。現在は地方交付税不交付団体であり、表面的には健全な財政状態を保持していますが、多摩市を取り巻く固有の環境や状況、条件の分析を常に意識し、今以上に堅実な財政運営を進めて欲しいと考えています。そして、国民一人ひとりの生活の現場を支える地方自治体の役割は今後益々重要になります。「地方主権」の確立に向けて、「地方自治体の財政基盤の強化」が必要不可欠であることをさらに声を大きく主張すべきであると思います。「地方主権」が掛け声倒れに終わらないよう、私たちがこの地域から国を動かし、変えていく意気込みで市政運営に取り組んでいただきたいと思います。

来年度いよいよ本格的に始動する「健幸都市（スマートウェルネスシティ）」の取組みは、「だれもが健康で幸せを実感できるまち」の実現という理念には共感するものの、具体的な取組みをわかりやすく発信していくことが大切です。他に類を見ない超高齢社会の課題に向き合うことと合わせて、何らかの支援を必要としているすべての人たちを包摂する社会のしくみづくりについても前に進めていただきたいと思います。また、健康は個人の価値感に根差すものですが、市民の現状を分析し、より効果的な疾病対策や健康づくりに取り組めるような環境整備は市の役割です。4月から新たな「政策監」ポストを設置した意義を私たちが実感できるよう進めていただきたいと思います。単に「現場を見ていただく」だけではなく、しっかりと市民生活の現実に向き合った政策の推進に力を果たしていただきたいと思います。

多摩ニュータウン再生についても将来に向けた提言がまとめられ、一定の方針が示されました。市域面積の6割を占めるニュータウン地域の新たなまちづくりの一步を着実に踏みだしてほしいと思います。古くなったまちを「再生」させるという視点ではなく、このまちをさらに「進化させていく」という心持ちで取り組んでください。「古びた」ニュータウンというマイナスイメージを払拭し、大規模ニュータウンならではの「街の改造」という視点も組み込んでほしいと考えています。計画的に造られた地域ならではの「都市計画」再構築の観点も重視すべきです。全国に先駆けるモデルになれるよう国や東京都ともさらなる連携を図り、取り組むことも求めます。

2020年、東京オリンピック・パラリンピックに向けた取組方針も本格始動していく年となります。市内の大学や企業と連携し、「多摩市独自のおもてなし」で海外からの選手受入れにも力を入れて頂きたいと思います。本市には、緑豊かな環境や世界的に有名なキャラクター、映画やアニメの舞台などコンテンツが沢山あります。これらの地域資源を活用して多摩市の魅力を発信する絶好の機会であると考えています。

自転車ロードレースでは、多摩市内を通るコースが有力視されています。大会前には、実際にそのコ

ースを使ってプレイベントなども行われると思いますが、先手を打って、周辺他市と共に自転車ロードレース大会を共同開催し、ボランティアスタッフの育成と、市民意識の醸成を図ってはいかがでしょうか。

私たちの街には市民の感性をベースに言葉が紡がれている「非核平和都市宣言」があります。東日本大震災から5年、あの原発事故からも5年が経過していますが、まだまだその傷が癒えているとは言えません。改めて、宣言にこめられた願いを確認し、多摩市から発信していきたいと思います。

国政に目を転じれば「平和」や「安全保障」の問題についてまだまだ熟した議論が展開されているとは言いがたく、数の力で押し切る政治が進もうとしています。世界ではテロが頻発し、市民生活への脅威がますます強調されていますが、「決して、武力だけで解決はしない」とする基本的立場は堅持したいと思います。

さらに「平和」と深い結びつきのある「人権」は大切にされているでしょうか？私たちが問うべきは「個人の生き方が尊重されているだろうか？一つの価値観や世界観を押し付けられ、その窮屈さに苦しんでいる人はいないだろうか？」ということだと考えています。市民ひとり一人が日々の生活の中で、常にこの問いかけを続けていくことが「平和」や「人権」につながっていくのではないのでしょうか。そして市長には、多摩市女と男の平等参画を推進する条例や来月から施行される障害者差別解消法の具現化を通して、すべての人の人権が排除されない地域社会の実現に向けてしっかりと取り組んでいただきたいと思います。

さて、予算審査において最も質疑が集中した多摩市文化複合施設「パルテノン多摩」に関して、以下、述べます。

多摩市が抱えている公共施設再編の課題は、突き詰めると、今まで当たり前と考えてきた公共施設のあり方や役割りが時代や環境の変化に伴い、「変更を余儀なくされている」ことにどう向き合っていくのか、ということではないかと思えます。特に身近な地域にあって日常的に活用されてきた施設は市民の暮らしの一部ともなっていて、そのあり方を見直すことは、「くらし」のスタイルを変えることにもつながります。そこでは、なぜ変更を余儀なくされているのか、また変更することでどのように生まれ変わる可能性があるのかについて、ていねいに市民と共有することが大切です。

「パルテノン多摩の大規模改修」については、既に築30年近くが経ち、老朽化が抜き差しならないほど進んでいる現状を共有することが必要です。さらにこの施設が多摩センター地域の文化的シンボルとして果たしてきた役割をどのように評価し、今後のこの地域の活性化にどのように寄与するのかについて議論をする必要があると考えます。

実のところ、これだけの大規模施設ともなれば、単に老朽化に対応することだけでも並大抵のことではありません。しかし、公共施設全体の縮減が議論されているこの時期に、単なる老朽化を復活させる意味での「再生」でしかないとするならば、市民参加を謳う意味も半減するでしょう。そして、今後想定される多額の工事費をどのように市民に説明するのも問われてくると思います。

今後の工事費は60億とも70億とも言われますが、パルテノン多摩は多摩センターの活性化にどのような役割を果たすのか。さらに改修後はここでどのような取り組みが展開されていくのか。そしてそれは市民文化の醸成や多摩市の文化行政の充実にどのようにつながるのか。など、残念ながら見えてきません。

今回の大規模改修では、単なる老朽化対応のマイナーチェンジのみならず、施設の再生と見直しの視点を盛り込んでいくために市民も交えた検討の場をつくるとしていますが、市民の声がしっかりと反映されると期待してよいのでしょうか。形ばかりの市民参加を謳っても、本当の意味で「施設の再生や見直し」はできないのではないのでしょうか？行政の取組み姿勢は市民に伝わるものです。今回の改修にあたり、PFI手法ではなく、市が直接かかわる直接工事方式を選択したことは、「パルテノン多摩」の今後の運営を考える上でも、まさにここが「原点」にもなると思っています。今回の選択が将来にわたっても市民に「よき選択をした」と評価されるよう取り組んでください。

2020年までに改修を終えるために、4月以降早急に設計事業者の選定をやっていかなければなりません。その後も限られた時間の中で取り組みを進めることになり、なかなか厳しい状況であることは明らかです。しかし、設計事業者の選定は重要であり、ここで劇場やホール設計の経験と実力のある事業者をきちんと選定できるかどうかは、今後の事業の成否に大きな影響を及ぼします。ぜひ市民にとって最善の選択をしていただくことを望みます。

今回は、基本計画、基本設計を策定するための予算と受け止めています。その先については、今後の取組みにより、全体スケジュールの見直しはもちろんのこと、大きな方向転換も必要になるかもしれません。将来、この街で「暮らす」市民に思いを馳せ、私たちは、今だけでなく、後世の市民にも理解されるビジョンを描いていかねばならないでしょう。その責任の重大さを議会もともに確認し、よりよい一歩を踏み出すことが必要です。

私たち市議会は、今回のパルテノン多摩の大規模改修に関する予算に対し、附帯決議を全会一致で可決しました。議会は予算を認めた後は行政の執行に委ねるしかありませんが、私たちはこの一大プロジェクトの遂行にあたっては、行政の取組みのみならず、私たち市議会にも責任ある対応が求められると考えています。一方で施設の縮減を議論しながら、多額の税を投入してパルテノン多摩の改修に向けた設計を進めていくことは、大いなる説明責任を我々議会にも科すものと捉えています。附帯決議が単なる飾りにしかならないのであれば、議会自身が問われることになるでしょう。

パルテノン多摩の改修に向けた取り組みは、将来を見据えた大きな決断だと思います。パルテノン多摩が、市民文化の象徴的施設として将来にわたって一層存在感を発揮できる施設となるよう、取り組んでいただきたいと思います。今後の取り組みについては、しっかりと監視し、評価もしていきたいと考えています。

組織づくりについても述べておきます。

「人手が足りない」「やることが本当に多くなっていて負担が重い」「一生懸命取り組んでいても評価されない」そんな思いをいつも背中に背負いながら仕事をせざるをえない環境が多摩市役所内には広がっていると考えています。でも、みなさんは決して一人で仕事をしているわけではありません。やっと見直しを迎えた「多摩市人財育成基本方針」では「チームアップ！」を掲げています。作成に関わった職員の皆さんは職場の現状をととてもよく分析され、議論もし、方針として練り上げたのではないかと評価しています。

今は一人パソコン一台で仕事を行う時代になり、業務の効率性は向上したかもしれませんが、しかし、同時に業務が個別化し、職員が孤立化しているようにも見受けられます。「チームアップ！」を合言葉に決めた人財育成基本方針ですから、個々の職場環境を牽引する管理職の意識と取組みが求められます。市民や議会が指摘する「縦割り行政」の壁は、仕事の分業化のみを原因としているのではなく、職場の人と人との関係性に起因するものだとも指摘されます。職場全体でのコミュニケーション力向上が期待されます。人財育成基本方針で掲げる目標を一人ひとりの職員が意識しながら、業務に向き合ってもらいたいと考えています。

来年度は、パルテノン多摩大規模改修、市庁舎、あるいは今回の予算審議では触れることができませんでしたが、図書館新設にあたっての動きだしなど、大きなプロジェクトが動き始めます。決して楽観を許さない財政の見通しと公共施設の見直し方針に対して市民合意が得られたとは言えない状況の中で、市民の皆さんの市役所に対する視線はより厳しくなっていくのではないのでしょうか。とはいえ、未来を見据えた取り組みに果敢に挑戦することなくしては、多摩市の未来を展望することはできません。職員一人ひとりのやる気に火をつけ、それを組織全体の力にしていくことが求められます。その先頭に立つのは、組織をとりまとめ、チームアップ！を掲げた阿部市長です。しかし残念ながら予算審査を通じて「市長の声」があまり市民には届かなかったようです。もっと存在感を出してほしいという意見が寄せられておりますので、あえてお伝えいたします。

思い起こせば、昨年第1回定例会の平成27年度（2015年度）予算討論において、当時のいろはの会を代表して増田議員が次のように述べています。

『「超高齢社会」、「低成長時代」とややプラス志向に欠けるような表現で語られることが多い時代状況ですが、この時代を悲観的に「難局」と捉えるのではなく、難しい時代を乗り越えていくことのやりがいや喜びをみんなで共有していきたいものです。今、この瞬間にも、ここに生まれてくる子どもたちの笑顔、夢、希望があるのではないのでしょうか？私たちは「今」だけを見て考えるのではなく、やはり、子どもたちの健やかな成長と未来を展望しながら考え続けていくことが大切だと思います。市長には、粘り強く市民のみなさんと対話してほしいと考えています。そして職員の皆さんには、市長の粘り強い対話を支えてほしいとお願いします。そのためにも、市長には風通しの良い組織風土をつくるために汗をかいてほしいと思います。風通しの良い市役所に生まれる力が、「組織力」を強くすることにもつながり、ひいては、多摩市政の発展にも大きくつながっていくのではないのでしょうか。』

この思いは今でも変わらず、なお一層、強い願いとして、市長に求めていることです。

4月から阿部市長の任期折り返し、後半の2年間が始まろうとしています。人口の高齢化、公共施設の老朽化は市長のみならず、私たち自身が直面する課題です。時代と環境のめぐりあわせにより、多くの課題が突き付けられていますが、自らの志願して、市長となり、議員となり、あるいは職員となり、「公務」にたずさわっているのではないのでしょうか？私たちはみな、「市民の生命と財産を守る」重責を担う立場にあるのです。

市政運営は、いわゆる「ハードかソフトか」という二者択一の視点だけで捉えられるものではありません。新たに政策監をお迎えし、組織強化を図っていく先に、どのような政策実現を思い描いておられるのか。市長の言葉でさらに積極的に多方面に向けて語らない限り、正確な情報が伝わっていかないのではないのでしょうか？

そして、市長は施政方針でも「先人の英知とたゆまぬ努力」により、私たち多摩市の輝かしい発展がなされてきたと認識を述べられていました。国の住宅政策を受け入れてきた当時の歴代市長たちは、全市民の先頭に立ち、地域の発展向上のため、まちづくりに対する思いや情熱を国、東京都に強く訴えてきたと伺っています。多摩ニュータウン再生検討会議の上野委員長は「多摩ニュータウンの再生の取り組みは『歴史的な偉業』」と述べておられます。市長が率先して、国や東京都をさらに動かす情熱を持ち、行動力を発揮してほしいと考えています。

「情熱、行動、そして発信力を高めることをぜひとも、市長の目標の一つに掲げてください」

最後にお願い申し上げます、「改革みらい」平成28年（2016年）度多摩市一般会計予算の可決の討論といたします。